

第6回日本薬学教育学会大会 ワークショップ2 概要

ワークショップ日時	8月22日（日） 9:00-11:30
タイトル	臨床教育で活かす薬学的管理と情報共有の実践 ～ケア移行における薬剤師の連携力とは～
オーガナイザー	津田 真弘（京都大学大学院 薬学研究科 統合薬学教育開発センター） 段林 正明（大阪府済生会野江病院 薬剤科）
概要	<p>近年、導入された薬学教育における改訂モデル・コアカリキュラムに基づき、大学と臨床現場の双方において卒前教育の充実が図られている。そのため、教育を行う大学教員や臨床現場の薬剤師にとって、薬剤師が解決すべき臨床課題に取り組む実践的な研修が臨床教育を充実させるうえで必要となる。</p> <p>本ワークショップでは、超高齢社会における医療の課題である急性期医療から慢性期医療へ、そして入院から退院後の在宅や通院へ、といった治療や生活の移行を取り上げる。いわゆるケア移行におけるシームレスな薬学的管理や情報共有の実践を体験・研修して頂きたいと考える。今回は、ICUやHCUから一般病棟へ、一般病棟から在宅ケアへ、そして在宅ケアから救急外来へといった場面想定を「救急領域」のブースと「在宅ケア領域」のブースに分け、受講者の方を3名～5名程度で1グループとし、基本的な内容から体験し学んでいくスモールグループディスカッション形式のワークショップとなっている。そして、全グループで「救急領域」のブースから「在宅ケア領域」のブースの順で体験し、臨床現場での一連の流れを体感していただく中で、必要とされる薬剤師の介入について共に学んで頂く。受講者として大学教員、現場の薬剤師、学生など幅広く想定し、いずれの 카테고리の方でも有用な学びの場となるように「救急領域」では本領域に専門性の高い薬剤師を、そして「在宅ケア領域」では現役の在宅往診医にファシリテーションをお願いした。</p> <p>本ワークショップの受講により、臨床現場に必要な心構えと薬学的管理を体験していただき、日常の薬剤師業務のレベルアップや充実した薬学教育を展開していく一助になればと願っている。</p>